

# 製品と生コンが交流 コンクリート技術交流会

コンクリート技術  
日本リー

第6回コンクリート技術交流会(主催・日本コンクリート技術)が11月18日、午前10時から江戸東京博物館(東京都墨田区)の1階会議室で開催される。

この交流会は現業に役立つコンクリート技術の話題提供の場として、日本コンクリート技術(本社、東京都墨田区両国四一三八一、社長 篠田佳男氏)が平成16年から毎年開催しているもの。東日本大震災後は被災地復興の一助とすることを目的に「震災の復旧・復興に貢献するコンクリート技術」



をキャッチコピーに「コンクリート技術大会」として開催。昨年、被災地で5回目となる盛岡大会を開催して区切りを付けたことから、今回会場を東京に戻して「コンクリート技術交流会」として、実務者間の情報交換と人的交流の場を提供することを目的に開催する。プログラムは次の通り。

## ●パネルディスカッション(10時〜12時)

「コンクリート製品と生コンクリートの課題・取り組み・将来」

をテーマに、コンクリート製品業界と生コン業界からパネリストを招き、話題提供とパネルディスカッションが行われる。コンクリート製品と生コンクリートの最近の取組み等の話題提供を受け、コンクリート製品業界と生コン業界が意見を熟く意見を交換する。(名前所属、タイトルの順)。

【パネリスト】▽新田裕之(東栄コンクリート工業)「プレキャストコンクリートと生コンクリートの融合技術について」▽星田典行(ミルコン)「プレキャスト化に関する課題と提案」▽高田浩平(美建工業)「PCa業界と生コン業界

の交流」お互いの長所を活かした集約化」▽宮本充也(長岡生コンクリート)「生コン屋のゴミが都市鉱山に」残コン・戻りコン・スラッジの再利用最先端」▽廣藤義和(東神コーポレーション)「IoTを活用最多品質確保に向けて」安定供給と品質確保の両立」▽鷲澤幸一(炭平コーポレーション)「需給バランスとの整合性」生コン工場集約化の重要性と工夫」【コーディネーター】篠田佳男(日本コンクリート技術)

## ●技術講演(13時〜14時10分)

温度ひび割れの防止を可能にした新たな技術や、i-コンストラクションでも注目を集める理想的な高耐久埋設a型枠、施工者にと

って関心の高い工事評価点アップのための取組み、今後のコンクリート技術の中心を担うゼネコンにおけるコンクリートの技術開発の動向等について話題提供を行う(名前、所属、タイトルの順)。

▽河野一徳(日本コンクリート技術)「新たな温度ひび割れ抑制技術と理想的な高耐久埋設型枠の推進」▽尾嶋茂久(社会システム創研)「工事評価方法の現状と評価点アップのための施工計画作成方法」▽丸屋剛(大成建設)「ゼネコンにおけるコンクリート技術開発の動向」

## ●パネル展示(14時20分〜17時)、 出展社によるプレゼンテーション(14時20分〜15時30分)

出展社によるプレゼンテーション後、個別ブースで担当者による詳細な説明や質疑応答を実施(会社名、出展概要の順)。

▽愛知製鋼(コンクリートの長寿命化、メンテナンス低減に貢献するステンレス鉄筋コンクリートバー「サスコン」)▽アストン協会(コンクリート改質剤「CS-21」硬化したコンクリートに塗布含浸させて使用し、繊細な空隙を充填して表面部を緻密化します。躯体防水、表面保護、ひび割れ補修等に適用)▽コンクリート養生サービス(表層コンクリートに「本来の性能」を。コンクリート養生

の基本的な期間は、給水養生、水分逸散抑制養生で湿潤状態に維持することです)▽竹中土木・アズビック(軽量で柔軟なテープ状の不織布を用いてトンネル覆工コンクリートなど上部が閉鎖された空間のコンクリート充填性を向上させる「コンフィルテープ工法」)▽八洋コンサルタント(コンクリート構造物評価の高品質化を求めて耐凍害性・施工性を評価する現場型気泡計測装置のご提案)▽フロリック(未来をカタチに変える想像力)▽前田工織(しなやかな繊維がコンクリートを鍛えます。コンクリート表層の物質移動抵抗性が増大、構造体は補修・補強で耐力が向上)▽前田製管(工期短縮に最適、分割式大型ボックスカルバート「SSボックス」の施工事例をご紹介します)

## ●特別講演(17時〜18時)

西川和廣氏(土木研究センター理事)「構造物の適切な維持管理の在り方」

参加費は1万2000円(資料集CD代金・税込)。参加申し込み合わせは、日本コンクリート技術。〒130-0026、東京都墨田区両国四一三八一、TSビル5階。電話03(56669)6651、FAX03(3632)2970、Eメール(kkono@ic-tech.co.jp)。